

- ▼ 具体的な活動としては、
- ▼ 早期に人工呼吸器を外せるように呼吸状態を評価
- ▼ 人工呼吸器装着中に使われている薬剤についての評価
- ▼ 合併症予防（人工呼吸器装着による肺炎、口腔トラブル）



院内で使用している人工呼吸器

呼吸ケアチームとは、医師・看護師・臨床工学技士などの職種がさまざまな知識を持ち寄り、早期に人工呼吸器を外すことができるように呼吸管理、ケアを行う専門チームのことです。当院では、平成22年10月にチームを発足し活動しています。

厚生労働省では専任メンバーがいることを条件と定めており、チームは、呼吸器内科医師1人、外科医師1人、救急看護認定看護師2人、理学療法士1人、臨床工学技士1人で構成されています。ほかに呼吸認定療法士の資格を持つ病棟看護師や呼吸ケアに意欲的に取り組む看護師もチーム活動を担っています。



中央病院のチーム医療!

救急看護認定看護師・赤坂 ☎ 5121 内線7591

第8回

～呼吸ケアチーム～

- ▼ 事故防止
- ▼ 院内医療スタッフに呼吸管理の知識・技術の向上を図るための研修会開催を行っています。

また、人工呼吸器を装着している患者さんの支援のみならず、酸素療法や自分で痰を出すのが難しい患者さんのケアも行っています。

人工呼吸器による呼吸管理が必要な患者さんはさまざまですが、一日も早く人工呼吸器を外し、自分で安定した呼吸ができるよう、チーム一丸となつて日々活動しています。これからも実績を積み上げ、知識と技術の向上に努めてまいります。



呼吸ケアチームのメンバー

※平成24年2月号から掲載いたしました「中央病院のチーム医療！」は今号が最終回となります。

とわだの文化財 6 ～十和田市の文化財を紹介するコーナーです

問生涯学習課 ☎ 2313

十和田市指定文化財

「廻国奉納経帳」及び 「日本廻国納経供養塔」

廻国奉納経帳及び日本廻国納経供養塔は、文政13（1830）年香川県の薬王寺に弟子入りした「大空」が板ノ沢集落の協力を得て建立したものである。



日本廻国納経供養塔



廻国奉納経帳

昭和五十年代、道路工事中の作業員が道路沿いにある廻国供養塔の笠石を戯れに持ち上げたところ、竿石の中に三冊の納経帳が納められていた。納経帳には修行僧・大空（埼玉県北葛飾郡杉戸町の名主・間中与市）が約十年の歳月をかけ本州の神社仏閣、二百三十六カ所を巡り歩いた記録が残されている。

供養塔建立にあたっては板ノ沢集落の肝煎（江戸時代の村や町の代表）・治左衛門と老名（経験や知識ある人）・巳之助が世話人となっている。

大空は、両親の供養のため四国八十八カ所霊場を二十一回巡り、薬王寺に両親の供養碑を建立した後、日本廻国に出立した。最終地は恐山の圓通寺となっている。その後、どのような径路を巡り板ノ沢に辿り着いたのかは定かでない。

板ノ沢では治左衛門家に逗留、集落の人たちから弘法さんと慕われ長期滞在したと推察される。伝承によると大空は子供と遊び、お産の手伝いをし、病気を治し、松葉を食していたという。

奥瀬・浄圓寺の過去帳に「大空上座・天保二年九月十四日・治左衛門内ノ者」と記録されている。

三年前から薬王寺、松浦祐豊・現住職が板ノ沢を訪れ、地域の人たちと交流を続けている。

【文責：市文化財保護協会】